

日本経済新聞

9月15日

木曜日

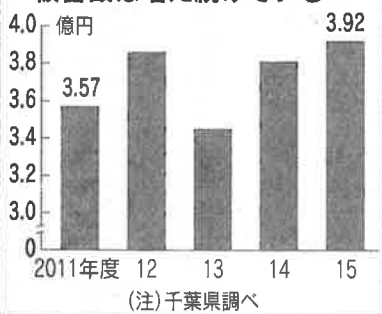
発行所 日本経済新聞社
東京本社 03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 06)7639-7111
名古屋支社 052)243-3311
西部支社 092)473-3300
札幌支社 011)281-3211

害獣わなセンサー開発

産業機器製造の西精機(千葉県船橋市、半田実社長)は、イノシシなどの害獣を捕獲する箱わなに取り付ける光電式センサーを開発した。センサーが害獣の侵入を感知するとエアシリンダーが作動し扉が閉まる。従来の箱わなに比べて捕獲ミスが減らせるのが特徴だ。

西精機

千葉県内の害獣による農業被害額は増え続けている

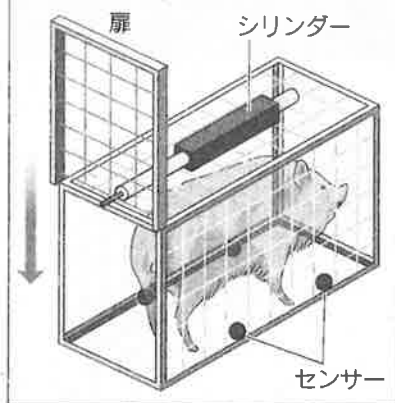


センサーやシリンダーは箱わなに簡単に取り付けられる

侵入感知、扉閉める

光電式、捕獲ミス減

2個のセンサーが同時に感知するとシリンダーが作動して扉が落ちる



千葉県では害獣による農作物の食害が増加傾向にあり、自治体を中心に売り込む。12月に販売を始め、1年後をめどに100台の販売をめざす。箱わなの底部に近い側面に光電式センサーを、上部に扉を閉めるためのシリンダーを設ける。害獣が入ったのを感知する

とシリンダーが作動して扉が閉まる。昆虫や落ち葉にセンサーが反応して扉が閉まるのを防ぐために、センサーは2個用意する。大きなイノシシが入り、2個が同時に反応して初めて扉が閉まる仕組みにした。電源は単3乾電池10本で1カ月程度使用できる。装置の価格は10万円前後を想定している。

従来の箱わなはエサなどを詰らした針金などに害獣が触れると、立てかけていた棒が倒れて扉が閉まる仕組みだが害獣が入ってきてもうまく棒が倒れない場合もあった。これを改良するために、

アイデア商品を考案する房総発明研究会(茂原市)が案を提示。西精機が試作機を開発した。西精機によると、今年1月に長柄町で試作機を取り付けた箱わなを設置したところ、2週間でイノシシを2頭捕獲できたため商品化を決めた。現在イノシシをおびき寄せ

るためのおいを発生させる機器の開発も進めて捕獲事業を始めた。西精機はこうした自治体を中心に需要があるとみて、西精機は1960年設立。理化学機械器具など産業機器を製造しており、15年12月期の売上高は1億4000万円。